

# 豊中市

## 刀根山校区地域自治協議会 「地域づくり活動計画」

1. 刀根山校区地域自治協議会「地域づくり活動計画」のねらい
2. 刀根山校区地域自治協議会が考えること、今後取り組むこととその展望
3. 地域活動の長期的役割・機能

【参考—地域コミュニティ、地域自治について（豊中市資料より）】

—刀根山校区の地域づくりの視点から—

- 資料1 「ふるさと刀根山の活性化を考えるアンケート調査」（2021.12）結果概要  
資料2 「構成団体ヒアリング調査結果」概要  
資料3 「地域づくり活動計画」策定のための構成団体意見交換（ヒアリング）結果まとめ

2022(令和4)年3月

## 1. 刀根山校区地域自治協議会「地域づくり活動計画」のねらい

刀根山校区地域自治協議会（以下「自治協」と呼びます）は2015年4月4日に設立されました。設立の目的（後に全体ビジョンに移行）は今も引き継がれています。

### **みんなで築こう「ふるさとづくり まちづくり」心豊かなまち！！ 刀根山**

以来、今日まで各種団体と密接に連携しながら、「TONEYAMA 夏フェス」（旧「ふるさと刀根山夏まつり」）に代表される地域住民の絆や交流を深めるためのイベントの開催、「防災・避難訓練」に代表される地域住民のセーフティネットに関わる取り組みの実施、「ふるさと刀根山」の発行に代表される地域情報の周知、伝達等、地域住民が刀根山校区で、楽しく愛着を持って安全・安心して暮らしていくために必要な取り組みを展開してきました。

設立後約7年が経過し、この間、地域では幾つかの自治会が解散に至ったほか、各種団体で活躍する人材の高齢化も進んできました。また、地域に暮らす住民も、地域外からの転入者の増加、世代交代等が進み、これまで培ってきた地域に根差したコミュニティに陰りが見えてきていると思われます。

しかし、地域住民が安心して楽しく暮らしていくためには、地域コミュニティの維持が重要であり、次代に相応しい新しいスタイルの地域コミュニティの形成、住民相互の理解の醸成に少しずつでも取り組んでいくことが求められます。

このような状況にあって、刀根山校区地域自治協議会では、「地域づくり活動計画」を策定し、地域自治協議会の位置づけを明確にし、各種団体との関係性を見つめ直し、計画的な取り組みの実行等を推進することといたしました。地域ビジョンを受けて、「地域づくり活動計画」は、以下の目標をもとに地域住民にとって相応しいコミュニティづくり、ふるさとづくりに取り組むための指針となることを期待しています。

### **日々の暮らしを豊かにし、安全で安心して住まえる、住民の、住民による、住民のための地域コミュニティ“刀根山校区地域自治協議会”の創造**

◇自治協設立当時のビジョンをあらためて以下に記載いたします。

全体ビジョン	みんなで築こう「ふるさとづくり まちづくり」心豊かなまち！！ 刀根山
安全（防犯・防災・交通）	向こう3軒両隣、あいさつがこだまするまち！！ ルールとマナーで明るいまち！！ 犯罪のない、災害に強いまち！！
子育て・子育ち	のびのび楽しく子育て！ 夢と希望を育む！ 笑顔いっぱいあふれるまち！！
ねんりん世代	地域のつながり大切に！ いきいき明るく健康に！ 孤立しない・させない長寿のまち！！

ふるさと交流（世代間交流）	人と人の輪をつなぎ、ずっと住みたいまち！！ 笑顔かがやく健康づくり、友だちづくりのまち！！
情報発信（PR）	調べよう！伝えよう！みんなの気持ち！思いをのせて！ 情報発信のできるまち！！
魅力（史跡・歴史・文化）	自然と緑豊かな美しいまち！！ 歴史物語のまち！！（能勢街道、刀根山城跡、マチカネワニ）

## ◇「ふるさと刀根山の活性化を考えるアンケート調査」について

この計画策定にあたり、2021年12月に「ふるさと刀根山の活性化を考えるアンケート調査」を実施し、住民のみなさんの地域に対する考えを伺いました。（資料1参照）

### イ 居住者の暮らし

「たいへん住みやすい」、「住みやすい」が75%。その理由（複数回答）としては、「安全安心して暮らせる」65%、「自然環境が良い」50%、「長年住み続けている」43%でした。地域への“愛着がある”ということでしょうか？！ 「教育・子育て環境が良い」も27%でした。

「住みにくい方」にとっては、「買い物が不便」75%、「行政の支援が少ない」38%、「医療環境が良くない」「近所づきあいが希薄」が30%、「生活費が高い」25%でした。

### ロ 日常生活の不安

「不安なこと」としては、「急病などの緊急時」40%、「一人暮らしになること」「家族のこと」25%強。これらはコミュニティの課題に繋がる部分かと思われます。

図は<AIテキストマイニング>出現頻度が高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



## ハ 地域活動との関わり

「地域の活動、行事に参加したことがある」人は、「祭り、イベント等」、「防災活動」が26%。「参加したことがない」40%で、その理由は「忙しい」40%、「知らなかった」30%でした。

交流活動は「積極的に行うべき」「やや そう思う」が70%弱で、コミュニティ活動の必要性は多くの方が感じておられます。

40代以下の層では夏まつり、キャンドルナイトなどのイベントへの参加指向が強く、50代以上では防災・避難訓練等の生活の安全安心に関わる活動への指向が高いと感じられます。

「地域自治協議会（自治協）」については、「知らない」が56%で、活動の中身も含めて特に地域活動に関わっていない普通の住民の方々に情報が届いていないということから、普及啓発の不断の努力が必要と感じられます！

自治協ができたことによって「行事への参加機会が増えた」「交流の機会が増えた」が10%強で、自治協の存在価値を高める取り組みにより、さらに活発な参加が期待できるかと思えます。

## 二 今回のアンケート調査

配布 6,820 通、回収 414 通（内郵送・ポスティング回答 318、web 回答 96）回収率 6%。

回答者のうち、自治会加入者は52%でした。性別では 女性 60%、男性 35%。

年代別では60代以上が67%。所帯人数は 1人・2人世帯が62%となっていました。

## ◇ 構成団体の活動について

2022年に構成団体の活動についてのヒアリングを実施しました。（資料2・3参照）

### 【刀根山校区地域自治協議会構成団体が担う主な住民サービス】

防災防犯、社会教育、子ども教育、福祉、健康、環境保全、交流親睦、地域振興、人づくり、広報

団体	自治会 連合会	公民 分館	福祉 委員会	防犯	赤十字	P T A	民生 児童	青少年健 全育成会	おや じ会	共同 募金	若水会	自治協	
活動 分野	防災防犯	社会 教育	福祉	防災 防犯	防災	防災防犯	福祉	防災防犯	教育	福祉	福祉	広報	
	福祉		健康		福祉		教育、子育て		子育て		教育、子育て		健康
	健康	教養			健康	健康		健康	交流 親睦		交流	防犯	
	環境保全				健康	健康		健康		健康	健康		
	交流親睦		健康 増進			環境保全	環境保全		交流親睦			交流 親睦	教育
	地域振興					交流親睦	交流親睦		人づくり				
広報				人づくり	人づくり						交流 親睦		
メイ ソ	全般	社会 教育	福祉	防犯	福祉	教育	福祉	人づくり	交流	福祉	交流	地域全 体に係 る広報 や交流 親睦及 び広報 等	

## 2. 刀根山校区地域自治協議会が考えること、今後取り組むこととその展望

### ◇刀根山校区のコミュニティ活動の当面の方針

#### 方針1

刀根山校区では、基本的には自治会や公民分館、福祉委員会などの各種団体が、今も尚それぞれの目的を果たすべく機能し、様々な活動を展開しています。

そこで当面の間は刀根山校区では、住民自治に関する各分野の取り組み、活動について、これら各種団体によるこれまで通りの地道な取り組みに委ねることとします。

#### 方針2

刀根山校区地域自治協議会としては、

1. 各種団体と協働で実施している防災訓練などの地域住民及び地域全体のセーフティネットに係る活動を中心に取り組むこととします。

2. 各種団体が主体となっている活動の内、特に子育て世代などを対象とした地域全体に関係するまつりやイベントなど、地区内の交流親睦を主な目的とする分野横断的な取り組みを中心に、適切な役割分担のもと取り組むこととします。

3. 地域内の様々な活動を集約し、一斉に地域に情報発信するための広報PR（「ふるさと刀根山」の継続的な配信など）を中心に取り組むこととします。

4. これまで地域との接点が無かった住民へのサービスやサポートの充実、人と人との新しい関係づくりに積極的に取り組むこととします。

### ◇刀根山校区地域自治協議会活動の展望

#### <地域自治活動における刀根山校区地域自治協議会>

- ①自治協は、その構成団体の活動の維持や充実のための支援を積極的に行うことを基本とする。
- ②自治協構成団体と自治協の部会は住民が安全・安心で楽しく暮らせるための地域活動を行う。
- ③地域活動により住民の地域への愛着を促す。
- ④自治協は、住民と地域団体の良い関係の構築を図る。

#### <自治協が役割を果たすための指針>

- ① 地域に住まう住民、自治会等の持つ課題を集約し、地域活動に反映するとともに必要に応じて行政等につなぐ。
- ② 安全・安心な地域づくりのために地域住民のセーフティネットである防災と福祉の維持向上に向けた支援を図る。
- ③ 楽しく暮らせるための各世代にわたる事業の実施を調整し支援する。
- ④ ジェンダーギャップを解消し、女性が活躍できる地域社会づくり、若者が活躍できる地域社会づくりを先導する。
- ⑤ 地域及び地域活動状況の変化を集約・把握し、中・長期の事業戦略につなぐ。
- ⑥ 地域活動の連絡の場として運営委員会を活用して状況の変化への対応を図る。

### 3. 地域活動の長期的役割・機能

#### 【当面(5年以内程度)の刀根山校区地域自治協議会の果たすべき役割・機能と目標のあり方】

刀根山校区では、この基本方針に示されている地域自治組織（住民自治）の段階としては、「市コミュニティ基本方針」の第2段階に該当すると考えられます。

このため、未だ各種団体が十分に機能している現段階にあっては、住民自治に関する各分野の取り組み、活動は、しばらくは各種団体の地道な取り組みに委ね、自治協議会では、地区内の分野横断的な取り組みと、地区全体を集約した広報PRなどに特化して取り組むこととします。

##### 【取り組み方針】

- 各種団体の活動状況を逐次把握し、情報収集及び把握を怠らない。可能な限り、各種団体の会合等に参加し、状況を積極的に把握する。⇒・地区広報紙「ふるさと刀根山」の掲載情報の把握、原稿作成及び発行を継続する。
- 各種団体の取り組みの内、分野横断的に実施するもの（特に、夏フェスやキャンドルナイト等の子ども関連の事業・おやじの会事業）について、積極的に関与し、事業の継続をサポートする。
- 行政に対しては、地域自治組織や地域コミュニティのあり方について積極的に提言していく。

※自治協は、自治会及び各種団体を補完する組織体として、各主体の取組の支援を中心とする。

##### 【自治協 現行規約 第5条取組】

- (1) 地域の課題の把握や情報の発信 (2) 地域の課題解決に向けての協議及び事業の実施
- (3) 「地域づくり計画」の策定及びそれに基づく事業の実施 (4) その他組織の目的達成のために

#### 【5年～10年後の刀根山校区地域自治協議会の果たすべき役割・機能と目標のあり方】

刀根山校区では、第3段階に差し掛かるものと想像されます。

この間、各種団体の状況については、十分に把握してきているはずですから、各種団体が果たすべき役割や機能の停滞が見られるようになった場合は、自治協議会が各種団体が担ってきた取り組みや活動及び事業を引継ぎ、地区全体（総力を挙げて）で活動の維持（取組内容の刷新や多少の変化はあったとしても）に取り組むこととします。

##### 【取り組み方針】

- 各種団体の活動状況を具に把握し、住民サービスの低下、住民自治の停滞を招かないために、地域内の全ての利害関係者が一堂に会する「校区運営委員会」（校区内団体プラットフォーム）の役割を強化する。⇒各種団体への定期的なヒアリング、状況聞き取り等を通じて、各種団体の住民サービスの点検評価等を行い、早期に支援できるように準備しておく。
- 改めて刀根山校区地域自治協議会としてのビジョン、方向性を明確化し共有する。（第2期地域づくり実行計画の策定等）
- 各種団体のみでは実施困難となってきた住民にとって必要な活動、取り組みについては、継続できるように引き継ぐ。
- 地区広報紙「ふるさと刀根山」の発行を継続する。

※自治協は、自治会及び各種団体の役割を徐々に引き継ぎ、住民自治の担い手として成長する。

#### 【10年後以降の刀根山校区地域自治協議会の果たすべき役割・機能と目標のあり方】

刀根山校区では、第3から4段階に差し掛かると考えられます。

この間、各種団体の状況は、かなり変化してきているものと思われ、各種団体が果たすべき役割や機能の停滞も相当程度が見られるようになると思われ。

自治協議会は、刀根山校区として必要なきめ細やかな住民サービス、住民自治機能を維持するために、地区全体（総力を挙げて）による持続可能な活動体制の確保、サービス内容の不断の見直し、充実に取り組むこととします。

##### 【取り組み方針】

- 住民にとって必要な活動、取り組みについては、内容の見直し、充実等に努め、暮らしやすい魅力ある刀根山校区の維持、存続に主体的に取り組む。
- 地域内の各種団体、組織体制の見直し、地域自治協議会の役割の刷新、部会等の編成の見直しに取り組む。（各種団体の体制変更等と連動して）
- 地区広報紙「ふるさと刀根山」の発行を継続する。

※自治協は、自治会や各種団体が変わる住民自治の主たる担い手としての役割を確立する。

【参考一地域コミュニティ、地域自治について（豊中市資料より）】

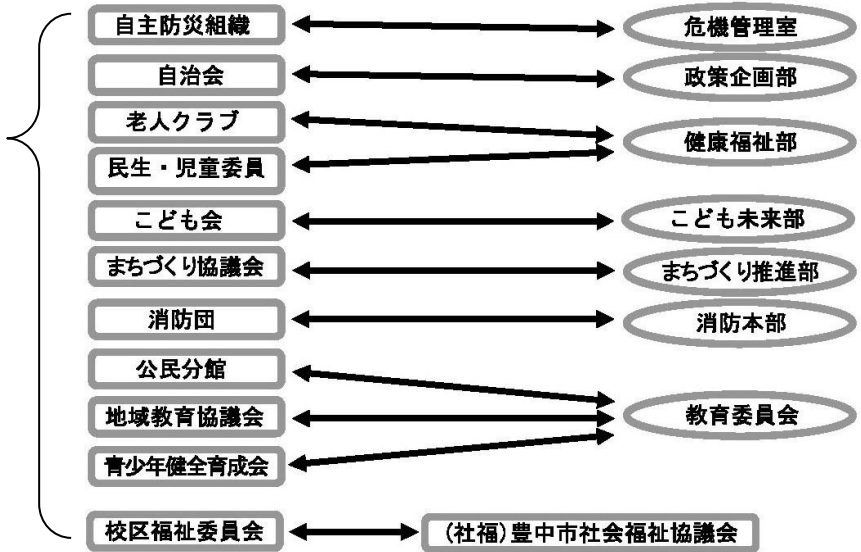
—刀根山校区の地域づくりの視点から—

「豊中市コミュニティ基本方針」（平成21年3月発行）より

■主な地域団体の行政所管部局（窓口）

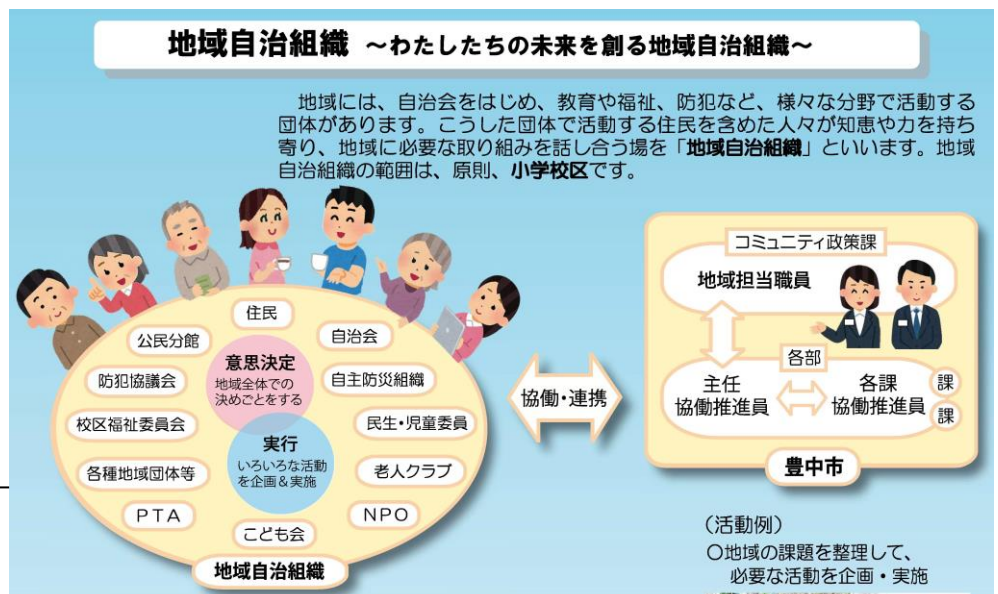
（※名称は平成21(2009)年1月現在）

豊中市では、これまでも、**教育や福祉、防犯などさまざまな分野で、地域の皆さんによる地道な活動が展開され、住みよい地域づくりを支えてきました。**こうした「市民力」、「地域力」をもっと発揮できる環境を整えることにより、地域コミュニティを活性化し、地域自治を実現することをめざしています。  
（豊中市ホームページ「地域の自治・コミュニティ」より引用）



「自治会ガイドブック」（令和3年3月発行）より

地域では、おおむね小学校区を範囲に、住民や地域団体が知恵や力を持ち寄り課題を解決していく寄り合いの仕組みをつくり、地域全体で取り組む必要のある課題や各種団体に共通する課題に対応できるようにします。  
（豊中市ホームページ「地域の自治・コミュニティ」より引用）



豊中市で活動する地域自治組織

現在、8小学校区（東丘、北丘、小曾根、刀根山、南桜塚、野田、高川、上野）で、地域自治組織が活動しています。これらの組織は、住民や団体間のつながり、学生やNPOとの連携、市からの助成金などを活用し、夏祭りなど地域の交流事業や、防災訓練、情報誌の発行・配布といった、新たな活動を始めています。

地域自治組織のメリット

加入世帯の減少、担い手不足など、自治会活動には様々な課題があります。自治会だけで解決できない場合は、住民や団体が知恵や力を持ち寄り地域自治組織で取り組むことで、新たな担い手の確保などにつながっていくことが期待できます。

多くの住民が地域の活動や運営に参加し、互いの負担を軽減しながら地域を支え、育む地域自治組織について考えてみませんか？

（活動例）

○地域の課題を整理して、必要な活動を企画・実施



（多世代交流を深める「畑のある交流サロン」）

○地域の情報を住民に発信する



（地域情報をまとめた「情報誌」）

○住民同士が話し合う場をつくり、地域の目標を決定

○各種団体の活動の支援・調整

○地域を代表して、市と連絡調整

豊中市地域自治

「豊中市コミュニティ基本方針」（平成 21 年 3 月発行）より

■地域自治組織の段階と取組みのイメージ（案）

団体相互のつながりの度合い

段階	地域コミュニティ・自治の状態等	必要な取り組みや市の施策
1	<p>1. 状態 地域全体としての目標を特に持たない状態で、断片的に存在している状態。行政の所管部署との関係がある。また、地域活動に関わりをまったく持たない人もたくさんいる状態。</p> <p>2. 成立要件 -</p> <p>3. 範囲 概ね小学校区までの範囲を超えない程度</p> <p>4. 形態 ・行政的団体（行政の事務局を持つなど）→ 公民分館、校区福祉委員会、こども会、防災・防犯、PTAなど ・任意又は公式の自発的団体 → 自治会、まちづくり協議会、NPO・NGO、ボランティア団体など、 ・企業、事業所</p> <p>5. 役割 基本的にはそれぞれの組織が、それぞれの役割を果たすために完結した活動をしている。</p>	<p>○人と人、人と地域との関係づくり ・コミュニケーションの機会づくり ・地域に関心を持つきっかけづくり など</p> <p>○地域活動の担い手を発見し育てる仕組み・環境づくり</p> <p>それぞれの部署が、地域団体の事務局機能や連絡調整を行う。 行政事業の目的を達成するために、それぞれのコミュニティ観のもとで、それぞれの手法で業務を実施。</p>
2	<p>1. 状態 地域全体の目的・目標は持たないが、各団体が、相互のプロジェクトへの参加をし、適宜情報の交換を行っている。出入り自由な緩やかな連携あり。</p> <p>2. 成立要件 特になし。時限的、プロジェクト型で明確な課題設定のもとで活動が行われことがある。</p> <p>3. 範囲 特にめやすはないが、小学校区までの範囲で行われている。</p> <p>4. 形態 「段階1」の団体が、必要に応じて「実行委員会」「OOプロジェクト」を形成する。</p> <p>5. 役割（活動） それぞれの組織が、それぞれの事業を成立させるために、他の組織と連絡・調整・連携等を行い必要な資源を調達する。</p>	<p>○多様な団体の交流と情報交換の促進 ・活動報告会、NPO 等との分野を超えた交流会など</p> <p>○連携を支援する仕組みの整備 ・情報提供・相談・コーディネート事業など ・地域担当制（行政の地域課題への対応力を強化）</p>
3	<p>1. 状態 地域全体の方向性（課題）を共有し議論できる。また、共通の課題に対して解決のための決定や自主的な事業を実施している。団体相互の関係は「段階2」に比べて安定的。</p> <p>2. 成立要件 継続的組織（プロジェクトのような時限的なものではない）</p> <p>3. 範囲 概ね小学校区までの範囲を超えない程度。「OO連合」、「OO協議会」形式で繋がっている。</p> <p>4. 形態 各分野の組織の代表者等で構成された機能と運営を補佐する事務局の機能で構成される。組織規約等を持つ。</p> <p>5. 役割（活動） 地域課題の設定、共有をして地域計画を作成する。その計画に基づき事業やその優先順位、実施主体を市に提案し、市は提案に基づいて実施計画に登載をする。総合計画や都市マスタープランなど、計画策定過程に参画している。こうした活動を通して、地域内での課題を設定、共有し、解決に向けた活動を行っている。また、行政事業（施設や公園の管理など）を受託したり独自に収益活動を行う。</p>	<p>○地域全体の課題を発見・共有、意思決定するための場や仕組みづくり</p> <p>○地域全体で課題に取り組むための支援 ・人的、資金的支援など</p> <p>○タウンミーティング等による行政との協議、意見交換</p> <p>○事務局機能の充実→組織自立化のための収益活動—行政事務の外郭化など</p>
4	<p>1. 状態 地域自治制度のようなもので、公式化された組織。地域内分権の主体。近隣政府的なイメージ。</p> <p>2. 成立要件 地域自治が可能なら一定規模の広がりやまとまりを持ち、地域住民の意向を反映するための民主的な組織運営が行われていること。また、地域の公共的団体やNPOなどと連携していること。</p> <p>3. 範囲 「段階3」の地域連合・地域ブロック（小学校区の範囲を超える広域）</p> <p>4. 形態 各分野の活動組織の代表者などで構成された意思決定機関と、運営をコーディネートする事務局で構成される。</p> <p>5. 役割（活動） 総合計画に掲載する地域計画の策定とそれに基づき事業実施、地域情報の提供、地域の合意形成など。地域計画に基づき、一定料の予算を議会の議決を経て配分。事業の決定、予算執行（事業実施）までを行う。</p>	

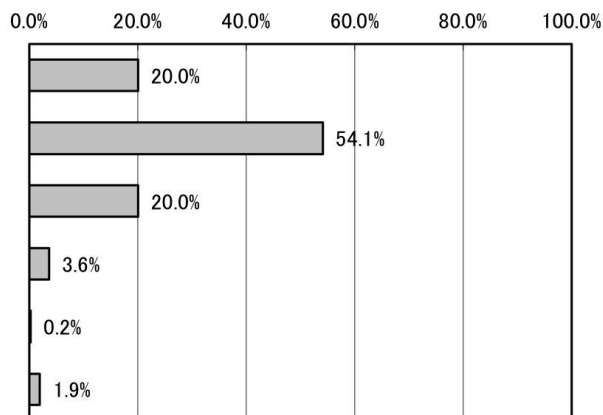


## 資料 1 「ふるさと刀根山の活性化を考えるアンケート調査」(2021.12)結果の概要

アンケート回答者数及び年齢層：414名（10代1名、20代4名、30代6%・23名、40代15%、50代13%、60代18%、70代25%、80代以上19%）

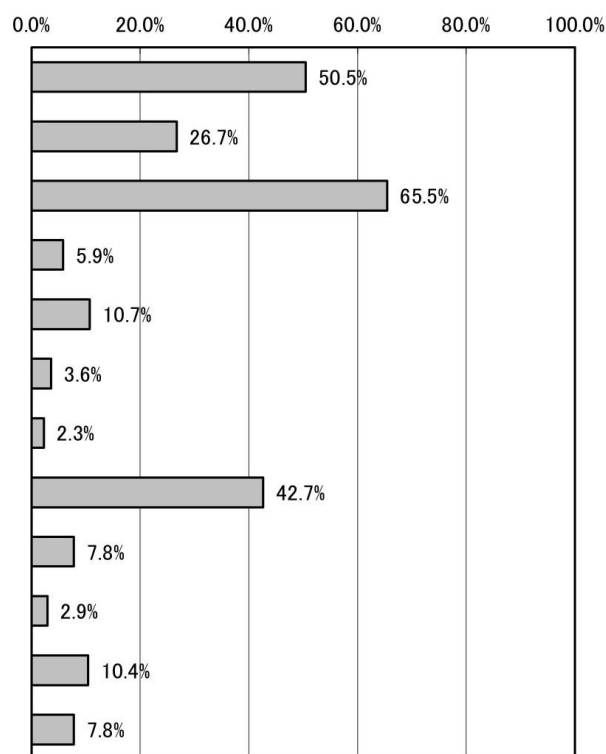
問 I-1. 現在、お住まいの地区の住み心地はいかがですか？

No.	選択肢	件数	構成比
1	たいへん住みやすい	83	20.0%
2	住みやすい	224	54.1%
3	普通	83	20.0%
4	あまり住みやしくない	15	3.6%
5	住みにくい	1	0.2%
6	無回答	8	1.9%
	合計	414	—



問 I-2. 問 I-1で「1. 又は2.」の理由は？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	自然環境が良い	155	50.5%
2	教育・子育て環境が良い	82	26.7%
3	安全で安心して暮らせる	201	65.5%
4	親が住んでいる	18	5.9%
5	近所づきあいが密である	33	10.7%
6	行政の支援がある	11	3.6%
7	生活費が安くて済む	7	2.3%
8	長年住み続けている	131	42.7%
9	自分のやりたいことができる	24	7.8%
10	特にない	9	2.9%
11	その他	32	10.4%
12	無回答	24	7.8%
	合計	307	—

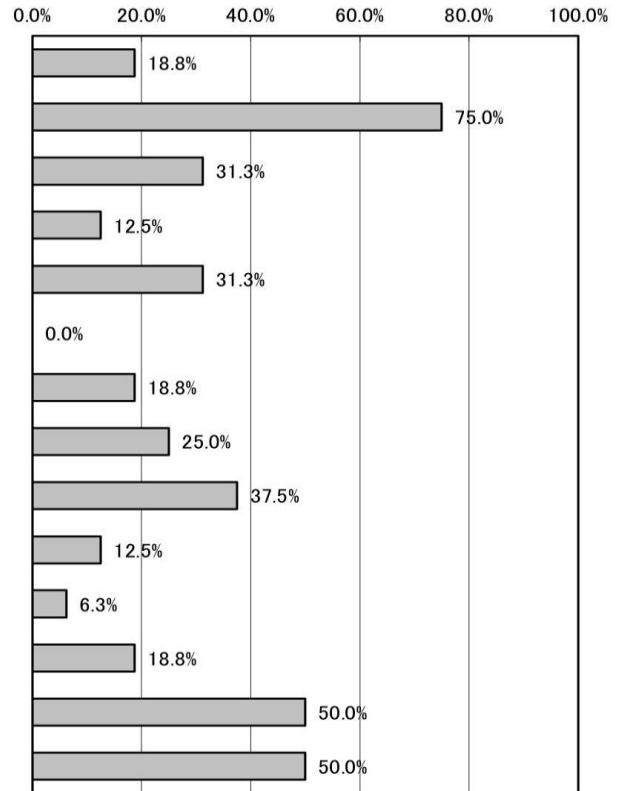


### 「たいへん住みやすい」、「住みやすい」が75%

その理由としては、「安全安心して暮らせる」が65%、「自然環境が良い」が50%、「長年住み続けている」が43%、「教育・子育て環境が良い」が27%となっており、住民にとっては環境の良さ、地域に強い“愛着がある”という意識がうかがえます。

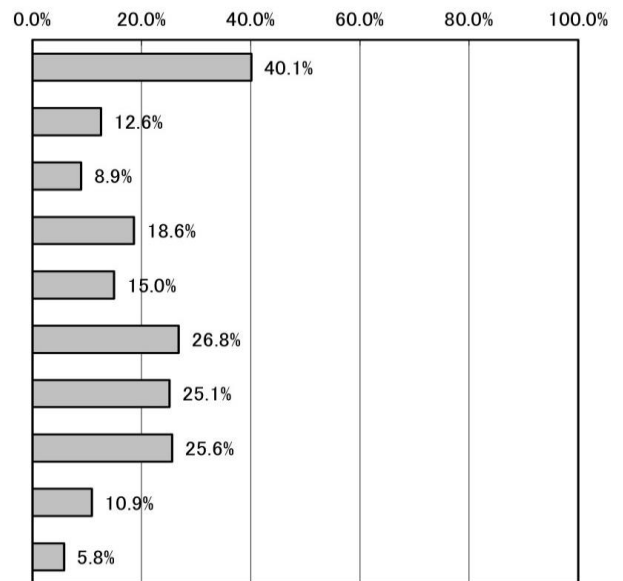
問 I-3. 問 I-1で「4. 又は5.」の理由は？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	交通が不便	3	18.8%
2	買い物が不便	12	75.0%
3	医療環境が良くない	5	31.3%
4	教育・子育て環境が良くない	2	12.5%
5	近所づきあいが希薄である	5	31.3%
6	近所づきあいが濃すぎる	0	0.0%
7	道路清掃など管理が煩わしい	3	18.8%
8	生活費が高い	4	25.0%
9	行政の支援が少ない	6	37.5%
10	親族が住む場所から遠い	2	12.5%
11	自分のやりたいことができない	1	6.3%
12	特にない	3	18.8%
13	その他	8	50.0%
14	無回答	8	50.0%
	合計	16	—



問 I-4. 日常生活で不安なことは何ですか？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	急病などの緊急時	166	40.1%
2	持病が悪化すること	52	12.6%
3	食事作りや洗濯などの家事	37	8.9%
4	家族などの介護	77	18.6%
5	詐欺などの被害	62	15.0%
6	いつかは一人暮らしになること	111	26.8%
7	子どもや家族のこと	104	25.1%
8	経済的なこと	106	25.6%
9	その他	45	10.9%
10	無回答	24	5.8%
	合計	414	—



住みにくい方にとっては、「買い物が不便」が75%、「行政の支援が少ない」が38%、「医療環境が良くない」及び「近所づきあいが希薄」が30%、「生活費が高い」が25%となっています。

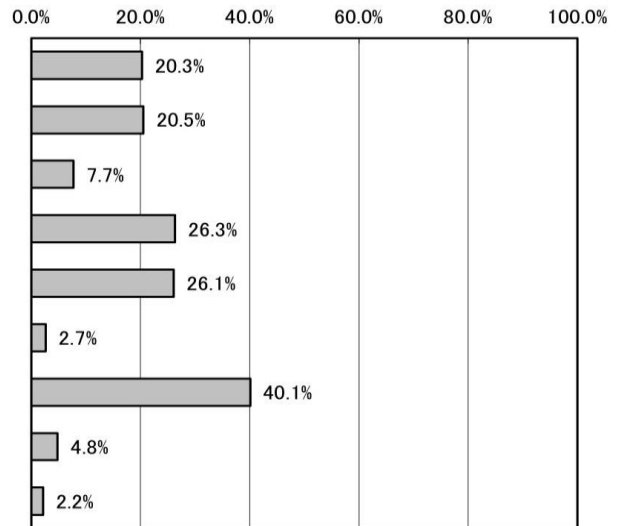
⇒近所づきあいが希薄や生活費が高いなどは、都市部ならではの悩みと言えます。

不安なこととしては、「急病などの緊急時」が40%、「一人暮らしになること」及び「家族のこと」が25%強となっています。

⇒これも近所づきあいが希薄な都市部の悩みであり、コミュニティの課題に繋がる部分と言えます。

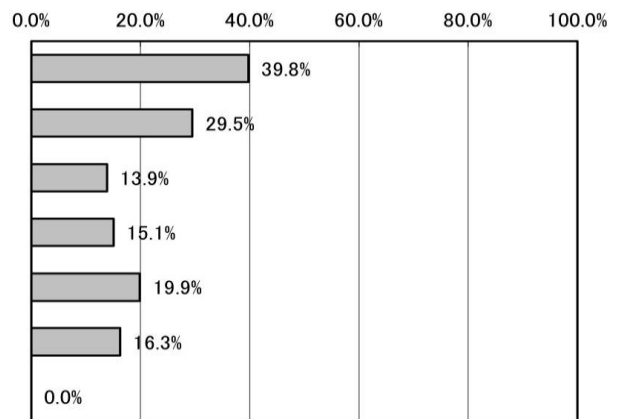
問Ⅱ-1. お住まいの地域活動で、過去3年間に参加したものは？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	地域や自治会で催された会議	84	20.3%
2	地域や自治会の役	85	20.5%
3	道路清掃など管理作業	32	7.7%
4	祭り、イベント等の文化活動	109	26.3%
5	防災活動	108	26.1%
6	その他のまちづくり活動	11	2.7%
7	参加したことがない	166	40.1%
8	その他	20	4.8%
9	無回答	9	2.2%
	合計	414	—



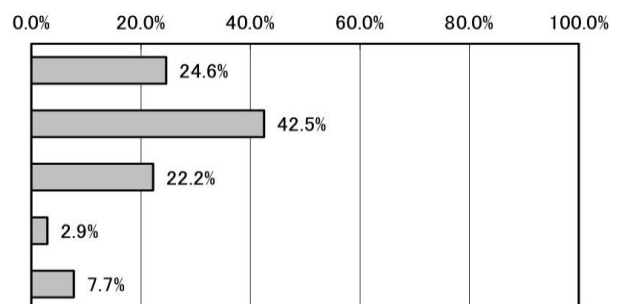
問Ⅱ-2. 問Ⅱ-1で「7. 参加したことがない」の理由は？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	仕事や家事などが忙しい	66	39.8%
2	活動を知らなかった	49	29.5%
3	他の人とのコミュニケーションが苦手	23	13.9%
4	体の調子が悪く参加できない	25	15.1%
5	煩わしい	33	19.9%
6	その他	27	16.3%
7	無回答	0	0.0%
	合計	166	—



問Ⅱ-3. 地域活動による住民同士や他地域との交流の取組は積極的に行うべきか？

No.	選択肢	件数	構成比
1	そう思う	102	24.6%
2	ややそう思う	176	42.5%
3	あまり思わない	92	22.2%
4	思わない	12	2.9%
5	無回答	32	7.7%
	合計	414	100.0%



地域の活動、行事に「参加したことがない」が40%となっています。

参加したことがある人は、「祭り、イベント等」及び「防災活動」への参加が26%となっています。

参加したことが無い人の理由は、「忙しい」が40%、「知らなかった」が30%です。

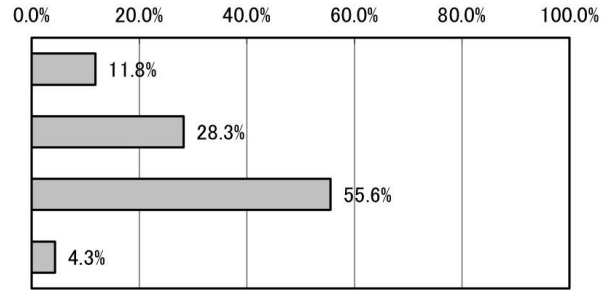
**⇒これはコミュニティによる努力で十分に解決できる課題です。**

交流活動は「積極的に行うべき」「ややそう思う」が70%弱となっており、住民の多くがコミュニティ活動の必要性を感じていることがうかがえます。

**⇒あとは普及啓発の問題と捉えることができます。**

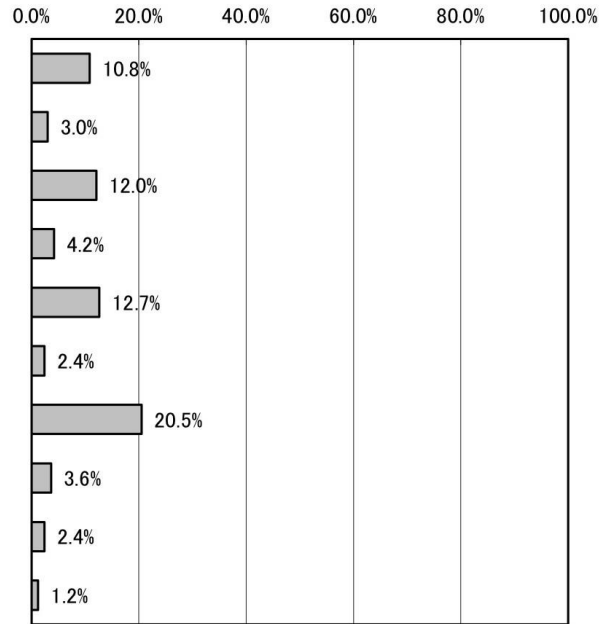
問Ⅲ-1. 刀根山自治協議会の設立をご存じか？

No.	選択肢	件数	構成比
1	組織が設立されたことも内容も知っている	49	11.8%
2	内容は知らないが、組織が設立されたことは知っている	117	28.3%
3	組織が設立されたことを知らない	230	55.6%
4	無回答	18	4.3%
	合計	414	100.0%



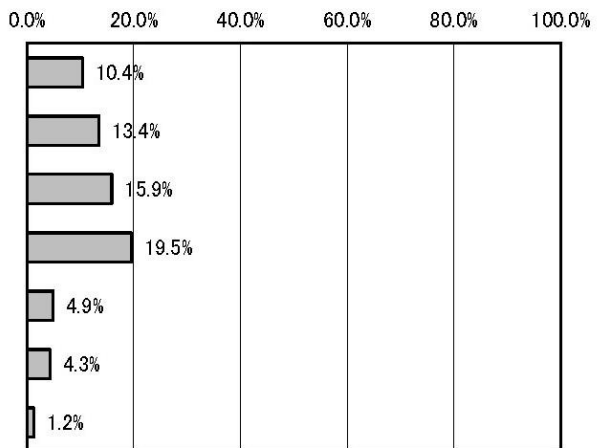
問Ⅲ-2. 問Ⅲ-1で「1.」の方の組織が設立され良かったことは？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	地域の様々な活動に参加する機会が増えた	18	10.8%
2	地域の新しい活動ができるようになった	5	3.0%
3	これまで関わりがなかった人と交流できた	20	12.0%
4	参加した行事や活動が日々の暮らしに役立った	7	4.2%
5	地域内の他の人との交流が増えた	21	12.7%
6	地域で困っていること、不安なことの解決につながった	4	2.4%
7	特になし	34	20.5%
8	分からない	6	3.6%
9	その他	4	2.4%
10	無回答	2	1.2%
	合計	49	—



問Ⅲ-3. 問Ⅲ-1で「1.」の方の自治協の活動で見直した方が良いものは？(複数選択)

No.	選択肢	件数	構成比
1	地域の行事や活動の内容	17	10.4%
2	住民の困っていること、不安なことの解決につながる活動をする	22	13.4%
3	地区の行事や活動の参加者の呼びかけ方、スタッフの集め方	26	15.9%
4	特になし	32	19.5%
5	分からない	8	4.9%
6	その他	7	4.3%
7	無回答	2	1.2%
	合計	49	—



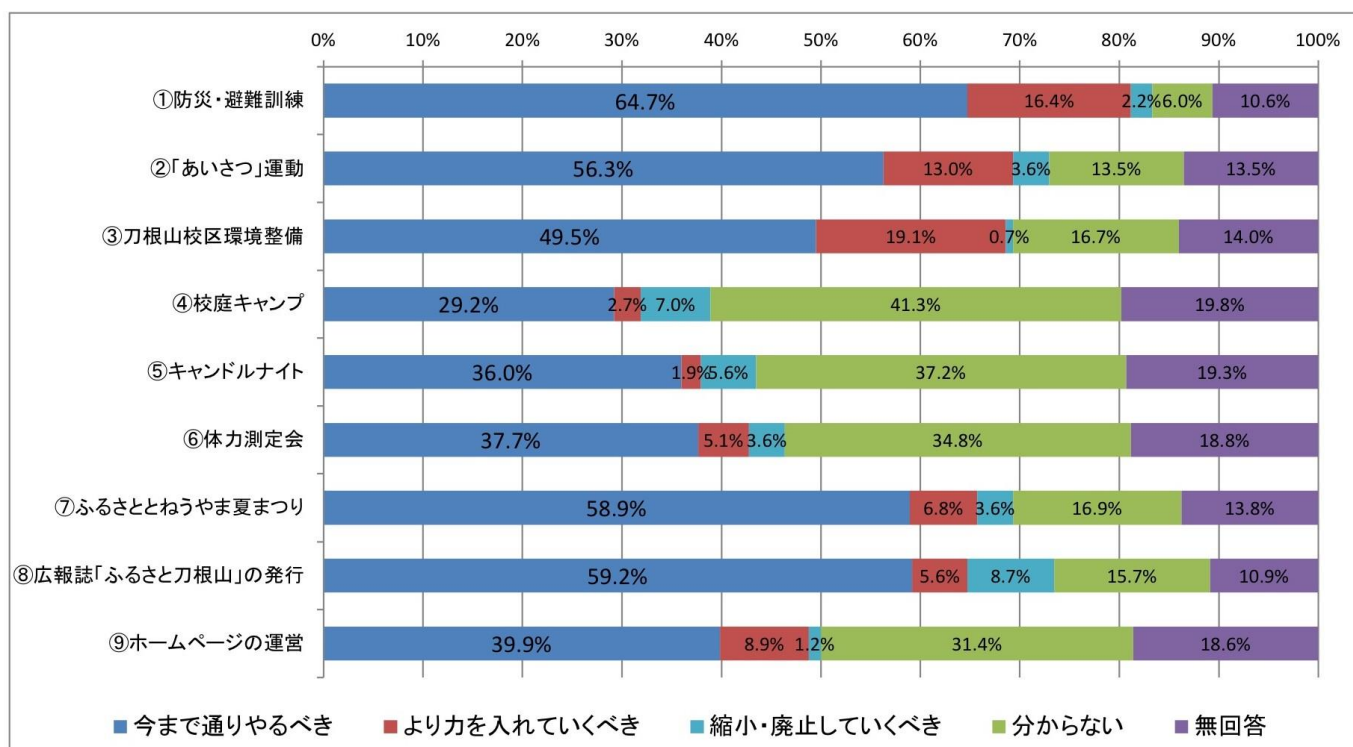
刀根山校区地域自治協議会については、「知らない」という住民が56%となっています。

その一方で、組織が設立されて良かったこととしては、「参加機会が増えた」「交流機会が増えた」が10%強となっています。

自治協の課題としては、「参加の呼びかけ方」、「課題解決に繋がる取り組み」が求められています。

**⇒活動の中身も含めて普及啓発の不断の努力が必要であり、今後はより一層の存在価値を高める取り組みが重要と捉えることができます。**

	合計	今まで通りやるべき	より力を入れていくべき	縮小・廃止していくべき	分からない	無回答
①防災・避難訓練	414	64.7%	16.4%	2.2%	6.0%	10.6%
②「あいさつ」運動	414	56.3%	13.0%	3.6%	13.5%	13.5%
③刀根山校区環境整備	414	49.5%	19.1%	0.7%	16.7%	14.0%
④校庭キャンプ	414	29.2%	2.7%	7.0%	41.3%	19.8%
⑤キャンドルナイト	414	36.0%	1.9%	5.6%	37.2%	19.3%
⑥体力測定会	414	37.7%	5.1%	3.6%	34.8%	18.8%
⑦ふるさととねやま夏まつり	414	58.9%	6.8%	3.6%	16.9%	13.8%
⑧広報誌「ふるさと刀根山」の発行	414	59.2%	5.6%	8.7%	15.7%	10.9%
⑨ホームページの運営	414	39.9%	8.9%	1.2%	31.4%	18.6%



「防災活動」、「あいさつ運動」などは、今まで通りに取り組むべきという意見が多く、地道な地域活動へのニーズが高いと言えます。

また、「ふるさととねやま夏まつり」と「広報誌ふるさと刀根山の発行」への活動要望も60%以上となっており、地域における交流、ふれあいを促す活動へのニーズが高い状況です。

⇒防災活動、あいさつ運動など、地域住民のセーフティーネットに関わる活動は、継続していくことが重要です。

⇒若い人たちにとっては、「ふるさととねやま夏まつり」や「キャンドルナイト」などの大きな交流イベント的な活動への期待が高く、最低限の継続的な活動と、最低限の大きな“単発”事業を核として取り組むことが重要と言えます。

⇒これによって、刀根山校区地域自治協議会の地域コミュニティ組織としての存在価値を高めることに繋がるものと考えます。

## 資料2 「構成団体ヒアリング調査結果」概要

団体・委員等名称	会の目的	会の対応分野と活動内容	会の実情・課題・展望	地域自治協との関係
自治会連合会	会員が安全で且つ安心して生活できる地域づくりを目指すと共に各自治会及び地域内各種団体との連携を深める。	防災防犯、福祉、健康、環境保全、交流親睦、地域振興、広報他	全住民へのケアが重要。 自治会加入率の低下が懸念。 自治会によって活動内容の格差は大きい。 連合会としても担い手が不足。 自治会廃止エリアのコミュニティ維持が課題。	各種活動への補助金の受け皿。
刀根山公民分館	地域の住民の友好を深め、これを基盤として社会教育を実施し、地域内各種団体との連絡調整を図り、地域住民の連帯意識及び教養の向上と健康の増進を図る	社会教育、教養、健康増進他  市民体育祭、とねやまフェスタ他	若い世代の参加が少ない。 活動内容の見直しや刷新は必要。 住民への活動周知、PRが課題。	広報の連携のみ。
福祉委員会	各種関係団体と連絡調整を図り、その協力活動によって地区住民の福祉の推進に寄与する	福祉、健康他  ヨガ教室、なかよしクラブ、体力測定、ふれあいサロン他	現在の活動、事業で手一杯。 住民ニーズに応える事業の企画が必要。 ウィズコロナの新しいスタイルの創出が課題。 長年関わるベテラン中心で、世代交代が課題。	会の活動が中心。 関係性は薄い。
防犯刀根山支部	豊中防犯協議会の議決した防犯に関する諸施策を本支部内の各自治会と連携を図り、犯罪のない明るい町づくりを実現する	防災防犯他  地域巡視(自治会連合会共催)、見守り、子ども110番他	自治会廃止エリアでの担い手人材発掘。 各自治会より推薦を受けたメンバーで構成。 センター長は自治会長、役員のあり方は課題。	防災部会への参画。
赤十字奉仕団	赤十字の博愛人道の精神に基づき、明るく住み良い地域社会をつくるために必要な事業に協力、奉仕する	福祉、健康他  献血奉仕、日赤啓発活動他	役員は多くが60代以上。 若い世代が役員を引き継ぐのが理想。 リタイヤした看護師等の担い手確保が課題。	現時点では関係性は薄い。

刀根山小学校 PTA		防災防犯、教育、子育て、健康、環境保全、交流親睦、人づくり、広報他  PTA大会等会議への出席、学校行事への支援、とねやまカーニバル、子ども教室他	年間事業活動が多く、保護者の積極的な参加が得られにくい。負担感の軽減が大きな課題。  気軽に参加できる雰囲気、体制づくり、関係づくりが重要。  保護者への理解を促すことが大きな課題。	子どもに関連する活動の連携のみ。
民生・児童委員	社会奉仕の精神をもって、住民の立場に立って支援等を行うことにより、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざす	福祉、子育て	メンバーは充足(石橋麻田地区のみ欠員)。60代以上が多いが、40代等の世代も参加。昼間の活動が多く、現役世代の参画が難しい。  近年、個人情報保護の観点で責任が重い。	現時点では関係性は薄い。
青少年健全育成会	自主的に非行防止などの活動を推進し、青少年の健全育成に寄与	防災防犯、教育、子育て、健康、交流親睦、人づくり他  カーニバル、ラジオ体操他	委員は60名以上、活動実態は役員等のみ。活動を維持したいが、限られた人材で負担大。  活動メンバーの新たな確保、参加したくなる楽しい仕掛けづくりなど、抜本的な変革が必要。緊急時の連絡体制の強化は課題。	活動の関係性が不明確。  事業、地域団体の整理、体制の刷新が必要。
とねやまオヤジの会	子どもたちの笑顔の為に	教育、子育て、交流親睦他  夏フェス、校庭キャンプ、キャンドルナイト他	活動メンバーは15名程度、有志で構成。小学生を持つ父親、30～40代が中心。コロナ禍で中止の各種事業の再開が急務。OB等担い手、協力メンバー確保が課題。各種団体等との連携強化も大きな課題。	活動への積極的な支援協力(子ども部会、夏まつり部会)。
共同募金会		福祉他  募金活動他	自治会を通してのみ実施。  実態は連合自治会活動の一つ。  自治会未加入世帯と接点がないため、自治会が無いエリアでの募金活動のあり方が課題。	現時点では関係性は薄い。
若水会	高齢者自らの健康づくり、仲間づくり、地域社会への奉仕活動などの社会参加を通じて生きがいの	福祉、健康、交流親睦他  グラウンドゴルフ、ウォーキン	メンバー90名以上。7割が女性。  老人クラブ連合会の刀根山地域組織。  第1から第3まで(今後一つにまとめる必要。)財源もあり、当面独立した組織として活動。	現時点では関係性は薄い。

	ある日常生活を送る 老人クラブ連合会の刀根山地域 組織(所謂、老人会)	グ、カラオケ大会、誕生日会 他	新規参加者への門戸開放、退会自由度の拡 大、ニーズのある活動内容への見直し等が課 題。	
<b>刀根山校区地域自 治協議会</b>	地域住民が対等な関係で交流を 図りながら、子どもや高齢者など 地域住民が安全安心に暮らして いけるよう、さまざまな課題につい て話し合い、解決に向けた取り組 みを進め、“みんなで築こう「ふる さとづくり まちづくり」心豊かなま ち!! 刀根山”の実現をめざす	防災防犯、教育、子育て、交 流親睦、人づくり、広報他	規約に取組が記載。具体性に欠け、活動の位 置づけが不明確。地域自治協が中心となる事 業分野も不明確。 自治協の活動への住民の理解が乏しい。 役員、部会長は、構成団体の役員が多く、役 の重複で負担が大きい。 会の存在価値の向上や独自の人材確保が今 後の課題。	構成団体への事業支援(補助金 の受け皿) 広報関連の支援(「ふるさと刀根 山」による周知、PR)